

### (3) 周辺地盤の状況

# 【大滝ダムにおける斜面对策について】

- 大滝ダムでは、平成15年の試験湛水以後に、「大滝地区」、「迫地区」、「白屋地区」の3箇所について、地すべり対策工を実施しており、平成23年までに対策を完了。



図 2.1.1 大滝地区、迫地区 位置図

表 2.1.1 大滝地区・迫地区の地すべりブロックの概要と対策工の仕様

項目	大滝地区	迫地区
地すべり規模	約 100 万 m <sup>3</sup> (前面すべり) 【幅 150m, 奥行き 250m, 層厚 40~60m】	約 30 万 m <sup>3</sup> (下部すべり) 【幅 110m, 奥行き 200m, 層厚 35~40m】
現状 R/D 比	0.99 (水位 EL. 258.0m)	0.99 (水位 EL. 271.0m)
残留間隙水圧の残留率	15% [盛土高 EL. 285m]	40% [盛土高 EL. 300m]
計画安全率	1.15	1.15
抑制工分担安全率	1.05	1.10*
必要抑止力	P <sub>u</sub> =10,300kN/m	P <sub>u</sub> =12,900kN/m

※: 既設橋台基礎杭に対し、抑止工の影響を与えないよう配慮し、抑制工分担の安全率を 1.10 とした。

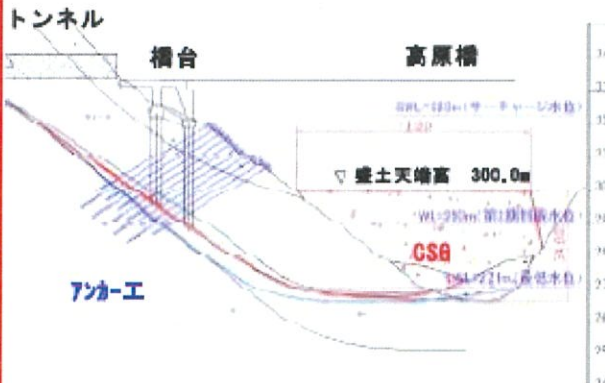


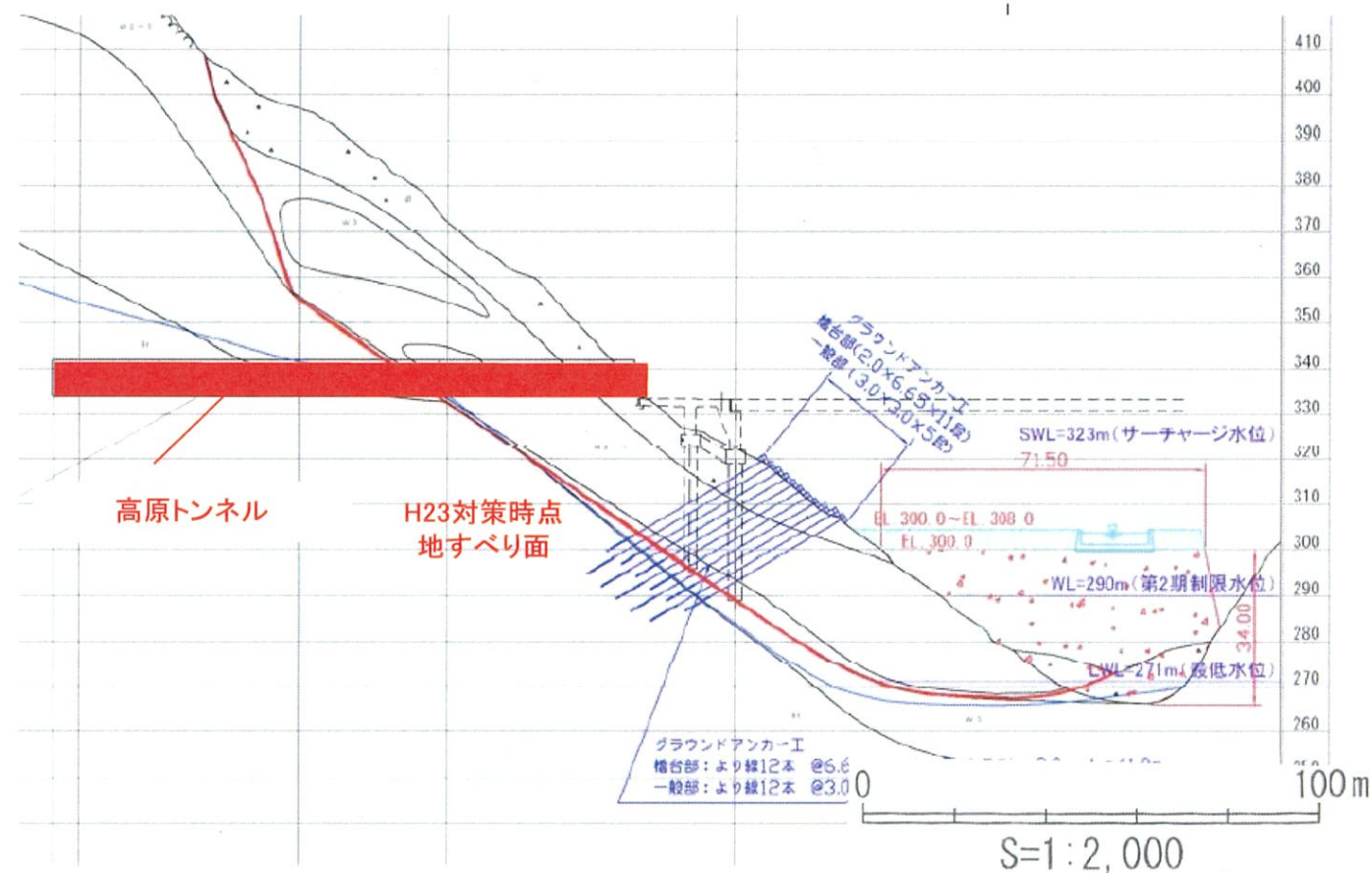




# 【迫地区における斜面对策について】

## 迫地区(高原トンネル坑口付近)の対策工事の概要(H23. 3完成)

		B案 押え盛土工 (CSG) + アンカー工	
対策 工案	抑制工 (盛土材料)	押え盛土(CSG)	
	抑止工	アンカー工	
対策工諸元 (Fs: 計画安全率) (Pu: 必要抑止力)		抑制工	押え盛土天端 EL. 300.0m /Fs=1.10
		抑止工	アンカー工 Pu=1,610kN/m /Fs=1.15
概要図			
対策工数量		抑制工: 盛土 (CSG) V=118,000m <sup>3</sup> 抑止工: アンカー工 (1,880kN/本×123本)	
抑止工としての 適用性		既設構造物への影響を与えない範囲で、アンカー配置(施工)が可能である。 [但し、抑止力という面では、Fs=1.10→	
事業規模(コスト・工期)		1.00(採用)	









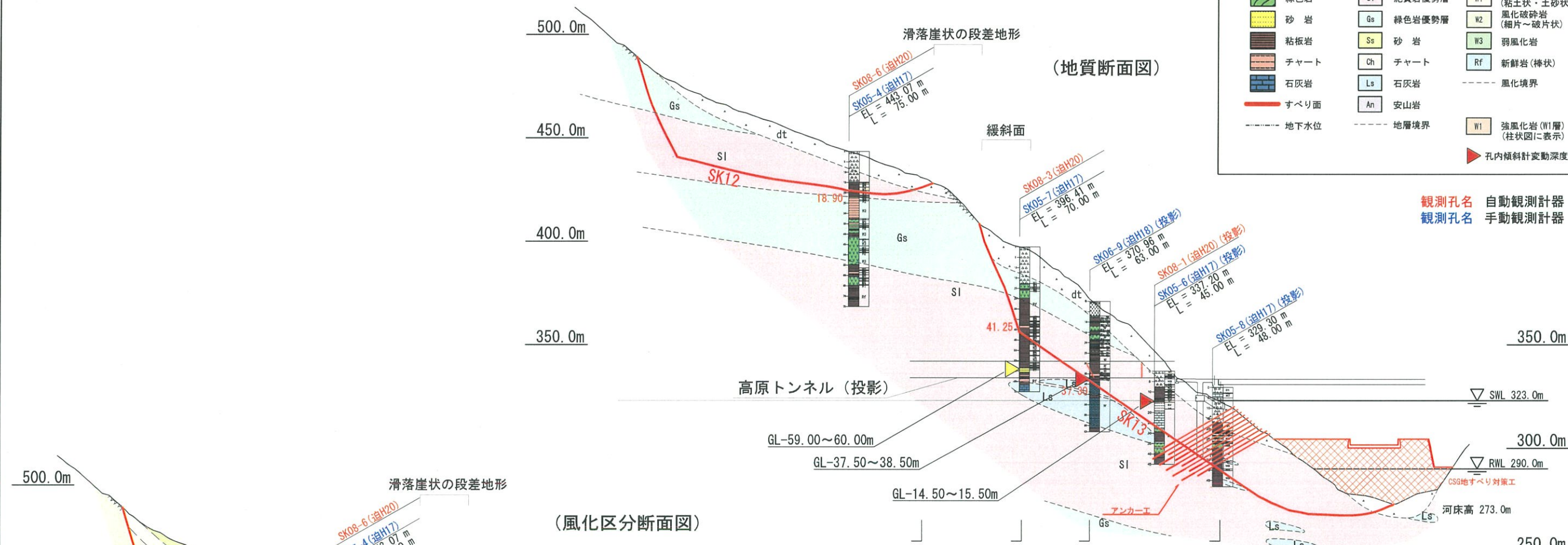
# SK13 (No. 3' 測線) 断面図

S=1:2,000

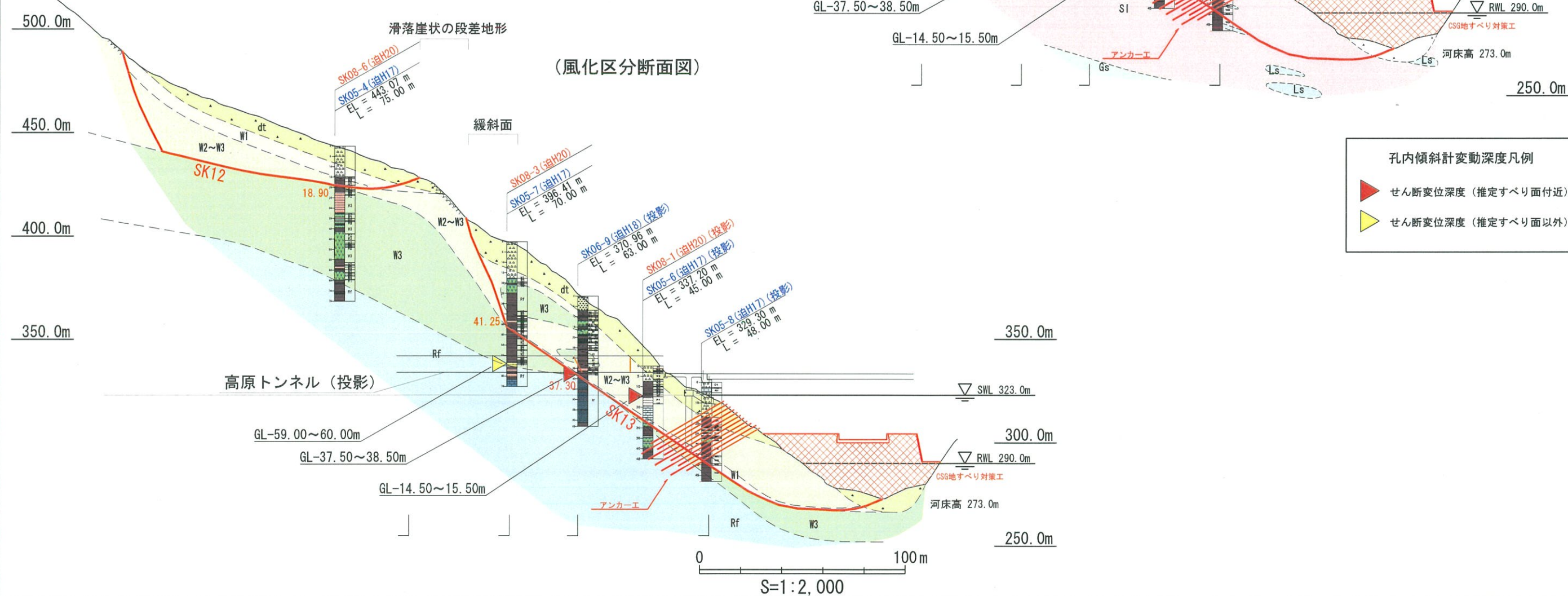
(地質断面図)

岩種区分		凡例		風化区分	
	崩積土		崩積土		崩積土
	緑色岩		泥質岩優勢層		強風化岩 (粘土状・土砂状)
	砂岩		緑色岩優勢層		風化破砕岩 (細片~破片状)
	粘板岩		砂岩		弱風化岩
	チャート		チャート		新鮮岩 (棒状)
	石灰岩		石灰岩		風化境界
	すべり面		安山岩		強風化岩 (W1層) (柱状図に表示)
	地下水位		地層境界		傾斜計

観測孔名 自動観測計器  
観測孔名 手動観測計器



(風化区分断面図)



孔内傾斜計変動深度凡例	
	せん断変位深度 (推定すべり面付近)
	せん断変位深度 (推定すべり面以外)